

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 12 日現在

機関番号：12602

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2014

課題番号：25862220

研究課題名(和文) 高齢者ケア施設で看護職が提供するEnd-of-Lifeケアの質の評価指標の開発

研究課題名(英文) Development of quality indicator for End-of-Life care provided by nurses in long-term care facilities

研究代表者

深堀 浩樹 (Fukahori, Hiroki)

東京医科歯科大学・その他の研究科・准教授

研究者番号：30381916

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：高齢者ケア施設で看護職が提供するEnd-of-Life(EOL)ケアの質の評価に関する1995年から2014年11月までの研究論文をMedlineとCINAHLを用いて検索した。387件の文献を抽出し、重複文献や適格基準に満たない文献を除外し24文献を選定した。さらに、わが国の看護職が行っているEOLケアの構成要素を明らかにする目的で、高齢者ケア施設の看護職に対して、過去1年以内の事例に提供したEOLケアを聴取するインタビュー調査に着手し、高齢者ケア施設に勤務する老人看護専門看護師を含む看護師3名からデータ収集を行なった。

研究成果の概要(英文)：Research articles regarding evaluation for quality of End of Life (EOL) care provided by nurses in long-term care facilities (LTCF) were searched using Medline and CINAHL. From 387 articles extracted, 24 articles were selected as eligible after exclusion of duplicate articles. Additionally, we launched qualitative research in which we interviewed Japanese nurses working in LTCF about their EOL care to the residents within a 1 year in order to clarify components of EOL care provided by Japanese nurses in LTCF. We obtained data from the three nurses working in LTCF, including a gerontological certified nurse specialist.

研究分野：老年看護学・看護管理学・家族看護学

キーワード：高齢者ケア施設 End of Lifeケア 文献検討

1. 研究開始当初の背景

高齢化率が平成 23 年度で 23.3%と過去最高となり(内閣府, 2012)、超高齢社会・多死社会を迎えているわが国においては、看取りの場所が多様化していくことが予測されている。1976 年に病院死が在宅死を上回って以降、死の場所は多くの場合病院であり、2006 年時点において全体の 80.0%の死亡場所は病院であり、在宅死は 12.2%、老人ホーム(老人保健施設を含む)での死は 4.9%にすぎなかった。しかし、2030 年時点においては、医療機関における死が約 89 万人と横ばいなのに対し、介護施設や高齢者住宅等における死は約 56 万人、在宅死は 20 万人と増加することが予測されている(厚生労働省, 2006)。今後、多様化する看取りの場において、その場の特性に応じた質の高い End of Life(EOL)ケアを提供することが求められている。

わが国においては、特別養護老人ホームや老人保健施設における看取りケア加算の導入に伴い、高齢者ケア施設における看取りは増加しつつある。高齢者ケア施設は病院と比べ医師の配置が少なく、介護職などの非医療職・福祉職が多く配置されているため、EOL ケアの提供にあたり看護職が果たす役割は大きい。しかし、看護職が高齢者ケア施設において質の高い EOL ケアを提供するための方法、および EOL ケアの質を評価するための方法論は十分には整備されていない。諸外国の研究動向を見てみると、Quality of Dying in Long-term care scale(Munn et al, 2007)などの nursing home や assisted living facility における EOL ケアや看取りの質を評価する尺度が存在する。また、わが国においても主に緩和ケア病棟や緩和ケアチームにより提供されるケアの質を評価する評価尺度は開発されている(Morita, 2004)。しかし、海外の高齢者ケア施設で使用することを目的として開発された尺度は、わが国の文化的・制度的背景を踏まえておらず使用は困難であり、緩和ケア領域で開発された尺度も医師が常駐していない場合が多いといった高齢者ケア施設の背景を十分に踏まえたものとはいえず、高齢者ケア施設において看護職が多職種と協働しながら使用することは難しいと考えた。

したがって、高齢者ケア施設において看護職が提供するケアのプロセスを評価するための EOL ケアの評価指標を開発することで高齢者ケア施設において看護職が多職種と協働しながら提供する EOL ケアの標準化を可能とし、質の高い EOL ケアの提供(高齢者にとって苦痛の少ない看取り・EOL、高齢者・家族にとって満足できる看取り・EOL)に寄与することが期待された。

2. 研究の目的

本研究の申請時における当初の研究目的は以下の通りであった。

- (1) 高齢者ケア施設で看護職が提供する EOL ケアのプロセスを評価するための概念を文献検討とインタビューによって明確にする。
- (2) 上記で明確にした概念に基づき、高齢者ケア施設で看護職が提供する EOL ケアのプロセスの評価尺度の原案を作成し、妥当性の一部を検証する。

3. 研究の方法

本研究の研究期間内においては、(1)文献検討と(2)インタビュー調査の 2 つの活動を行なった。高齢者ケア施設での看護職が提供する EOL ケアのプロセスを評価するための概念の明確化が遅れたため、申請時に予定していた高齢者ケア施設で看護職が提供する EOL ケアのプロセスの評価尺度の原案の作成と妥当性の検証を行なうには至らなかった。以下、(1)文献検討と(2)インタビュー調査について記す。

(1) 文献検討

世界の高齢者ケア施設において看護職が提供している EOL ケアの構成要素(概念)を明らかにする目的で文献検討を行なった。文献データベース MEDLINE と CINAHL を用いて、1995 年~2014 年 11 月の間に公表された英語論文を検索した。検索においては以下の検索式を用いた。

PubMed Filter: Language (English)

(("Terminal Care"[Mesh]) OR "Palliative Care"[Mesh]) AND (("Long-Term Care"[Mesh]) OR "Assisted Living Facilities"[Mesh]) OR "Nursing Homes"[Mesh]) AND ("Nursing Staff"[Mesh]) OR "Nursing Care"[Mesh]) OR "Nurses"[Mesh])

CINAHL Filter: Language (English)

((MH "Terminal Care +") OR (MH "Hospice and Palliative Nursing")) AND ((MH "Nursing Homes+") OR (MH "Assisted Living") OR (MH "Long Term Care") AND (MH "Nurses +") OR (MH "Nursing Care") OR (MH "Nursing Home Personnel"))

検索された論文を、タイトル、抄録、本文の内容から適格基準を満たすかどうかを判断し、基準を満たすもののみを選択した。

選択された文献を質的研究の結果を統合する手法であるメタスタディの手法で分析・統合し、EOL ケアの構成要素を明らかにすることとした(注: 2015 年 3 月の時点で分析は終了していない)

(2) インタビュー調査

わが国で先駆的に EOL ケアに取り組んでいる高齢者ケア施設で、看護職が具体的にどのようなケアを提供しているか、また、どのような看護ケアを提供することが望ましい

と認識しているかを明らかにすることを目的としてインタビュー調査を計画した。以下、調査の方法を記す。

対象者の適格基準

先駆的に EOL ケアに取り組んでいる高齢者ケア施設（特別養護老人ホーム・有料老人ホーム・認知症グループホーム・老人保健施設、介護療養病床等）で 1 年以内に入居者の EOL ケアに携わった経験のある看護職を対象とする。目標対象者数は 30 名前後とし、年齢・性別は問わない。除外基準は、年齢が 20 歳未満である者、日本語によるインタビュー調査への返答が不可能な者、身体的・精神的状況により研究への協力が不可能である者、研究協力に対する理解と文書による同意が得られない者、とした。

リクルート方法

対象者のリクルート方法は、研究への協力が得られている老人看護専門看護師らによる先駆的に入居者の EOL ケアを行っている施設の紹介、および、スノーボールサンプリング（対象となった施設の看護職から紹介を受け、施設長や看護責任者等に依頼する）とした。

研究協力への承諾が得られた施設の施設長が、EOL ケアに積極的に取り組んでいると考えられる対象候補者を選定し、研究参加依頼について対象候補者に伝えた。研究参加への内諾が得られた場合は研究責任者に対象候補者の連絡先を伝え、研究責任者、または、分担研究者から対象候補者に連絡をとり、研究への参加を依頼した。研究参加への内諾が得られた場合、対象候補者の勤務先、または、対象候補者が指定するプライバシーが保たれる一室でのアポイントメントをとった。

データ収集

インタビューは、対象者の勤務先または対象者が指定するプライバシーが保たれる一室で行なうこととした。事前に作成した看護職が提供している EOL ケアに関するインタビューガイドに基づいてインタビューを行なった。対象者の同意を得てインタビュー内容を録音し、逐語録を作成、データとした。

データ分析

現時点で、データ収集がまだ途上であるため予定しているデータ分析も含めて記述する。データ分析は、継続比較（Corbin & Strauss, 2008）による質的帰納的分析とする予定であり、具体的には以下のように進める。逐語録を十分に読み、看護職が提供している EOL ケア、または、提供することが望ましいと認識している EOL ケアの内容を抜き出し、意味内容によって切片化する。切片化された内容を表すコードを付け、共通するコードをカテゴリー化する。逐語録に戻ってコードとカテゴリーを継続的に比較し、類似性と相違性によって概念化し、看護ケアの内容を抽出する。出てきた結果に基づいて、次の対象者への面接内容とインタビューガイドを検討し、必要に応じて変更する。

倫理的配慮

本研究は東京医科歯科大学医学部倫理審査委員会の承認を得て実施している（2005 番）。

4. 研究成果

以下、(1)文献検討と(2)インタビュー調査の 2 つの活動の成果および今後の展望について記す。

(1) 文献検討

活動の成果

Medline と CINAHL を用いた文献検索の結果、合計で 387 文献を抽出し、重複文献や適格基準に満たない文献を除外し、24 文献を選択した（図 1）。

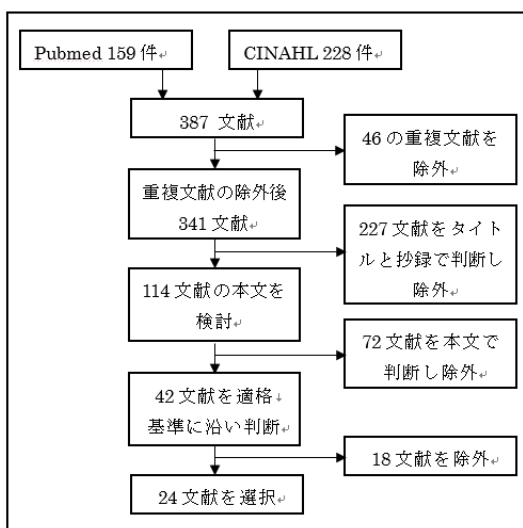


図 1. 文献選択の過程

選択された 24 文献を概観した結果、高齢者ケア施設での EOL ケアの要素として現時点では、ケアの概念、アセスメント、ケアのコーディネート、症状マネジメント、薬剤マネジメント、スピリチュアルケア、文化への配慮、家族ケア、個別性を重視したケア、意思決定支援、尊厳への配慮、親密さ・思いやり、死について伝える、他の入居者の死について伝える、チームワーク、スタッフのサポートが抽出されている。本分析は、分析の初期段階の結果であり、概念の重複がある、24 文献に量的研究論文を含むなどの限界があり高齢者ケア施設で看護職が行う EOL ケアの要素を十分に統合できていない。今後、メタスタディの手法を活用し、高齢者ケア施設で看護職が行う EOL ケアの要素を明確にしていく。

今後の展望

高齢者ケア施設の類型やそこに勤務する看護職の役割は世界各国で異なり、EOL ケアに含まれる要素も異なるであろう。本文献検討により、高齢者ケア施設で看護職が行なう EOL ケアの要素が明確に概念化されることで、わが国の高齢者ケア施設で看護職が行なう EOL ケアのプロセスが明示され、将来的に看護職のケアを評価するための指標の開発につながることを期待される。

(2) インタビュー調査

活動の成果

1 施設 3 名の看護師を対象としてインタビュー調査を実施した。対象となった看護師の年齢は 30 歳代 1 名、40 歳代 1 名、50 歳代 1 名で、看護師経験年数は 12 年から 30 年程度、当該施設での経験年数は 6 ヶ月から 5 年 6 ヶ月で、当該施設での看取り件数は 10 人程度から 30 人程度だった。

今後の展望

インタビュー内容から、上記の文献検討の初期段階の分析で抽出されている要素に対応した、EOL ケアにおける看護実践の具体例が抽出されている。これらの具体例は将来的に、看護職のケアを評価するための指標の項目として活用しうるものである。今後、引き続きインタビュー調査を継続していくことで、わが国の高齢者ケア施設で看護職が行なう EOL ケアのプロセスの具体例がより蓄積されることが期待される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

深堀 浩樹 (FUKAHORI Hiroki)

東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・准教授

研究者番号：25862220

(2) 研究協力者

那須 佳津美 (NASU Katsumi)

奥村 朱美 (OKUMURA Akemi)